

2023

CSR レポート

TREATING
YOU
RIGHT



MIYOSHI KASEI
Group

目次

トップメッセージ.....	3
三好化成とは.....	4
持続可能性への取り組み.....	5
私たちの価値観.....	6
私たちの重点課題.....	7
私たちのガバナンス.....	10
私たちの目標.....	11
2023 年サステナブル活動実績	12
顧客満足度.....	13
キャリアマネジメント.....	14
人権、平等、多様性.....	17
労働者の健康と安全.....	21
ビジネス倫理.....	24
持続可能な調達.....	26
環境負荷の低減.....	28
気候.....	33
What's Next	37
GRI Index.....	38

このレポートについて:

GRI 1: 基礎 2021

この CSR レポートの作成にあたり、「GRI スタANDARD」を基準に、GRI の報告内容に関する原則に則って持続可能な情報と完全性、正確性、バランス、明確性、比較可能性、適時性、検証可能性について考慮しました。

Disclosure 2-3

CSR レポートは毎年更新・発行されます。お問合せについては、以下までお願いします。

ematsuo@miyoshikasei.com

トップメッセージ

Disclosure 2-22

CSR、サステナビリティ、ESG. . . 現在社会では、これらの言葉を目に、耳にしない日はありません。

地球温暖化の深刻な影響が注目されるようになってすでに久しいですが、特に近年は、気候変動による激しい異常気象が地球の各地に大きな被害をもたらしており、また人間社会においても、貧困・不平等・格差の問題は世界中で痛ましい紛争や不幸を引き起こしています。こうした問題の解決が地球と人類にとって急務であることはいうまでもありません。

そして、社会の公器である私たち企業も、サステナビリティ経営*という考え方に基づいて、環境と社会への貢献を視野にいたした長期的な経営戦略を構築していくという使命を負っていると強く感じています。

三好化成グループは、2010年代の半ばから CDP、Ecovadis、UNGC 等のプラットフォームに参加し、サステナビリティ活動を推進してきましたが、最初は、何をどこまで行えばよいのか、顧客要望や世の中の潮流に対応しながらも自グループとしてのサステナビリティ経営とはどうあるべきかを自問自答してまいりました。

そして今、原点に戻って三好化成グループの経営理念に立ち帰ったとき、創業者が大切にしていた言葉「誠意と品性」、そしてそれを基軸理念としたコーポレートメッセージ「Treating You Right」（後述）には、サステナビリティ経営に求められるすべてがこめられていると、改めて気づかされたのです。

私たちのサステナビリティ経営は、昨日今日に始まったものではなく、創業時から半世紀近くの間、サステナビリティの根幹ともいえる創業者の精神を受け継ぎ、そしてそれを企業文化に醸成しながら事業活動を行ってきたのだと感じています。

CSR やサステナビリティは、企業の経済活動とは別に存在するものではなく、経済活動の根底にあるべき「環境への、社会への、人へのやさしい想い」であると思います。

私たちは、「Treating You Right」の精神の下に生み出された私たちの製品と活動が、自分たちのステークホルダーやそれ以外のすべての人々と社会の発展・幸福に貢献すること、そして三好化成グループの企業活動そのものもサステナブルであり続けることこそが、私たちの存在意義であり、目標であり、三好化成のサステナビリティであると信じています。

私は、これからも三好化成グループのサステナビリティ活動を研鑽・実行・推進し続けていくことを、お約束します。



三好化成株式会社
代表取締役社長
臼井 仁

*「企業はさまざまな環境・社会課題の解決に取り組み、環境・社会の維持・向上を図り、これを経営基盤として持続的に成長していく」という考え方。

三好化成とは

Disclosure 2-1, 2-2, 2-6

私たちはシリコーンによる表面処理テクノロジーをいち早く開発し、商品化に成功しました。この結果生まれたのが、濡れたスポンジでも乾いたスポンジでもメイクができる両用タイプのパウダーファンデーションです。

その後、独自のノウハウと技術により、アミノ酸処理、レシチン処理、エステル処理など、各種の化粧品用表面処理技術を次々と開発し、この表面処理テクノロジーを、化粧品の製造に欠かせない高品質体質顔料（セリサイト、マイカなど）や各種機能性粉体（微粒子粉体、シリカビーズ、パール顔料など）と組み合わせることによって、他に類を見ない画期的な製品群を生み出し、新しいコスメティックの開発に貢献しています。

また私たちは、日本の三好化成株式会社、アメリカ（コネチカット州）の Miyoshi America, Inc.、フランス（リヨン）の Miyoshi Europe SAS、中国（蘇州）の三好化粧品材料（蘇州）有限公司の4極のグローバルオペレーションにより高品質な製品を世界各国へお届けしています。

本 CSR レポートでは、上記4つの三好グループの活動を報告します。

持続可能性への取り組み

Disclosure 2-9, 2-23

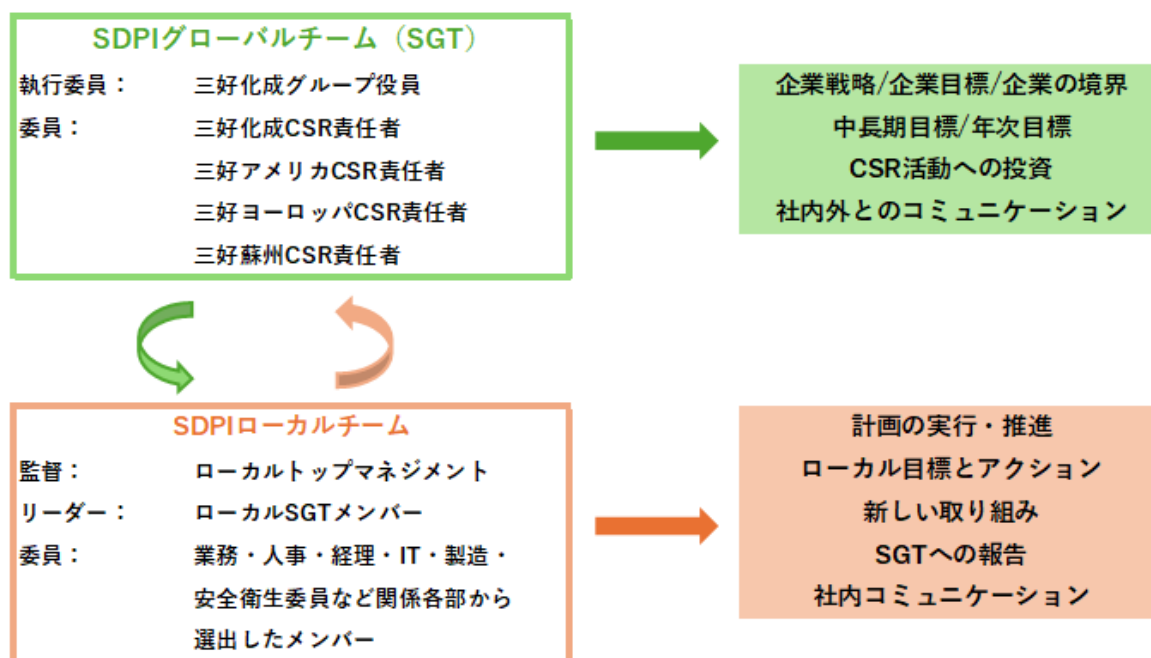
私たちは 1976 年の創業(会社設立は 1979 年)以来、三好化成グループの理念である「誠意と品性」を基軸に、全てのパートナーに対し敬意をもって倫理的に企業活動を行うことを大切にしてきました。

2015 年にこの精神は「Treating You Right」という現在の三好化成グループのコーポレートメッセージに受け継がれ、製品の品質やパートナーを大事にするだけでなく、環境や会社のエコシステム全体に対して誠心誠意取り組むという姿勢で企業活動をおこなっています。

私たちは、CDP や Ecovadis などの CSR 関連プラットフォームに早くから参加するなど、CSR 活動に積極的に取り組んできましたが、将来に向けて一層精力的に取り組むべく、2022 年に三好化成グループ全体の CSR 活動を強化、推進する専門組織を設立しました。

この組織は、名称を Sustainable Development Performance Initiative (略して SDPI) と言います。イニシアティブは、各拠点の CSR 責任者が主体となって SDPI リージョナルチームを編成し、三好ヨーロッパがグローバルベースで統括しています。

SDPI は年に数回、三好グループの経営陣に活動計画と実績を報告しています。



2017 年、私たちは最初の CSR 憲章を作成し、それ以降 2 回の更新を行いました。2019 年には、環境、公正な事業慣行、労働慣行と人権、持続可能な調達への取り組みに関する 4 つの方針を追加しました。

2022 年には CSR 憲章とこれら 4 つの方針を見直し、具体的な目標を盛り込みました。各方針はグループの親会社である三好化成の社長承認を得て、三年ごとに見直し、更新していく予定です。

CSR 憲章と 4 つの方針は以下 HP にてご覧いただけます：

<https://www.miyoshikaseigroup.com/csr/>

私たちの価値観

Disclosure 2-29



Treating you right with **SAFETY AND RELIABLE QUALITY SOLUTIONS** 安全で信頼できる品質

品質は、事業活動を行う上で重要な礎となるものです。私たちは、お客様にとって安全で信頼性の高い、高品質な製品をお届けすることをお約束します。

Treating the **ENVIRONMENT** right 環境に配慮した事業活動

環境は、三好化成グループの CSR 戦略の中核を成すものです。関係する国や地域の環境法令を遵守して事業を行うとともに、私たちの事業活動による地球への影響の低減を目指します。



Treating **PEOPLE** right 人権を尊重した遵法姿勢

三好化成グループの成長と発展は、一人ひとりの有能な従業員が情熱を持って仕事に取り組み、また各人がその責任を果たすことによって成し遂げられると信じています。

Treating **STAKEHOLDERS** right すべての利害関係者への配慮

持続可能な社会の実現に向け、お客様・お取引先様・従業員・その他の関係者との交流を深め、長期的かつ有益な関係を構築しています。



私たちの重要項目

Disclosure 3-1, 3-2

創立以来、私たちは自分達の事業が社会に及ぼす影響を常に意識して活動してきました。そして今後数十年にわたる私たちの持続可能なビジネスの成長は、社会的責任の観点からエコシステムを重要視し、積極的に取り入れていくことなしには実現し得ないと考えています。

三好化成グループの理念を念頭に、すべてのステークホルダーのために、私たちの事業運営において最も重要な問題は何かを明確にする必要があると考え、重要性の評価を実施しました。

私たちは、GRI 基準、CSRD 規制など現在採用されている国際基準、最近および今後の規制変更、また同業他社の CSR レポートなどを調査し、私たちだけではなく、ステークホルダーにとっても重要な課題になる可能性があると思われる項目を抽出しました。

これらの項目を、さらにその重要性に応じて評価し、詳細に検討した上で、ビジネスとの関連性に基づきランク付けしました。ここでは、私たちのビジネス活動の潜在的な影響とその結果生じるリスクと機会を、主要なステークホルダーについても視野に入れて評価しています。

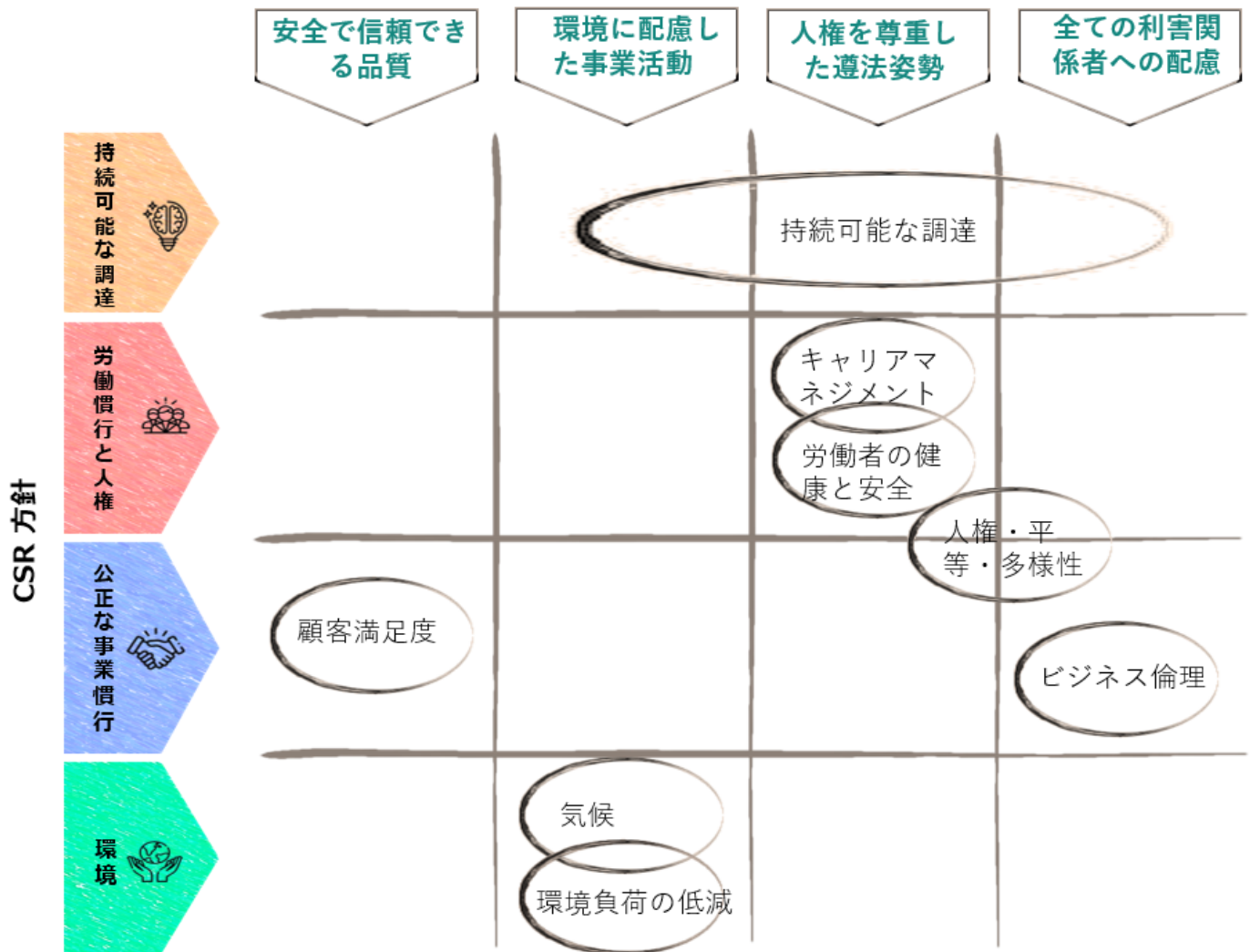
その結果、8つの重要な課題が導き出されました。これらの課題は、ステークホルダーの意思決定に大きな影響を与える可能性があり、また、三好化成グループの環境、社会、経済への係わり方にも重大な影響を及ぼす可能性があります。

8つの重要課題は2023年の四半期会議でグループの経営陣によって検証されましたが、今後2年間で、外部のステークホルダーからも意見を直接取り入れながら課題を評価・アップデートしていく予定です。

重要項目マトリックス

次の図は、私たちのコーポレートメッセージと4つのCSR方針を軸に、グループの重要項目をマトリックスに整理したものです。

私たちの価値観



私たちの企業活動は、さまざまな分野に直接的な影響を及ぼします。

最初に思い浮かぶのは、原材料から生じる影響です。

私たちの原材料は鉱物または植物由来です。鉱物・自然由来の原料は環境と労働環境の両方に影響を及ぼすことがあり、例として次のようなものがあげられます。

鉱物原料に関しては、土壌や水質汚染、土地利用の変化や、また、違法労働、未申告の採掘現場、不十分な賃金、労働者の健康および安全に対する危険など、人権や劣悪な労働条件の問題の中心となることもあります。

植物由来の原料は、土壌や水質汚染、森林破壊、生物多様性への脅威につながる不適切な農業慣行に結びつく可能性があります。一部のセクターは強制労働、男女不平等、化学製品に関連する健康問題に結びついており、こうした社会的な問題も真剣に受け止めなければなりません。

これらの影響は、通常、私たちの直接のサプライヤーよりも上流のサプライチェーンで見られます。三好化成グループのすべての拠点では、環境および社会活動の慣行を慎重に検討し、それらのサプライヤーが現地の規制要件を満たしているか、それを超えるレベルであることを確認しています。私たちの CSR 憲章と 4 つの方針には、私たちの責任は、自社の活動の範囲を超えて、私たちのサプライヤーにも及ぶと定めており、それが、私たちがサプライヤーにも同じ CSR の取組みを求める理由なのです。

サプライヤー等のビジネスパートナーを選択する際には、私たちが設定した重要な項目を最優先で考慮します。これらの項目は、パートナーとの契約の一部である三好行動規範に含まれています。

2023 年初めに開始したグループの CSR リスク評価は、環境、社会、ガバナンスを問わずリスクを伴うと特定されたサプライチェーン内のサプライヤーとコミュニケーションをとる際のベースとなります。次のステップとして、これらのサプライヤーと緊密に協力して、特定されたリスクを軽減するための前向きな取組みを奨励していく予定です。

この作業は 2024 年内に完了し、それ以降は、取組みの進捗状況の確認を行います。

私たちのガバナンス

Disclosure 2-11, 2-12, 2-13, 2-14, 2-17

三好化成グループのガバナンス体制は、各拠点の社長、副社長、CFO 等の経営陣によって構成されており、創業者のビジョンに沿って公正で倫理的な会社を作ることを目指しています。グループの CSR 憲章と 4 つの方針に支えられた健全な管理システムは、グループの経営陣に確固とした倫理的基盤を提供します。

これら経営陣による役員会は、三好化成グループの最高戦略管理機関です。グループとしての戦略を策定し、事業や財務の実績を達成しつつ、ガバナンス全般を監督します。役員会は、持続可能性に係わる要件をグループの戦略にうまく統合していくために、環境、社会、ガバナンスの各分野の主要な目的を確認し、目的達成の為に SDPI が作成・改訂したロードマップを、役員会にて年に一回検証します。

ロードマップで示された活動計画の進捗状況は、SDPI が四半期ごとに役員会で報告しています。

役員会のメンバーは、急速に進化する CSR と ESG のテーマや地域ごとの特性を十分に理解するために、各地域から集められた SDPI メンバーの知識と多様な経験から情報を得ています。役員会は、少なくとも四半期ごとに、最新の基準や変更について SDPI メンバーから報告を受けています。

私たちの目標

持続可能な調達



リスクアセスメント

- 2025年末までに**80%**のサプライチェーンにCSR (デューデリジェンスプログラム)評価実施

サプライヤーエンゲージメント

- 2025年末までに取引先の**80%**と主要取引先の**100%**がCSR行動基準に署名

サプライヤー評価

- 2025年末までにサプライヤー（原材料・包装・物流関係）の**100%**を評価
- 2025年末までにサービス・下請サプライヤーの**80%**を評価



労働慣行と人権



ダイバーシティ&インクルージョン

- ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進
- 2024年末までに管理職の**100%**にダイバーシティとインクルージョンの研修を実施
- 2024年末までに**100%**の従業員にハラスメントと差別に関する研修を実施
- 2023年末までに内部通報制度を整備
- 内部通報制度を100%の従業員に周知

児童労働・強制労働

- 2024年末までにサプライチェーンのデューデリジェンスプログラムを実施

労働条件

- 2023年末までに各拠点に労使対話の環境を設ける

キャリアマネジメント

- 年間勤務時間の1%を研修に充てる
- 年間パフォーマンス・レビュー率**100%**

安全衛生

- 2024年末までに全拠点でリスクアセスメントを実施
- 労働災害**0**



公正な事業慣行



腐敗防止

- 2023年の継続研修を含め、従業員の**100%**が腐敗防止の研修を受講
- 2023年末までに営業・調達・経理部門の従業員の**100%**を対象に、より高度な研修を実施

公益通報

- 2023年末までに内部通報制度を整備
- 2024年末までに内部通報制度を**100%**の従業員に周知

情報セキュリティ

- 従業員の**100%**を対象に、情報セキュリティ・情報開示管理全般に関する研修を実施



環境



GHG排出量

- 2030年末までにScope1および2のGHG排出量を**50%**削減する
- Scope 3を評価し、2023年までに行動計画を策定する

水

- 2024年末までに水に特化した戦略を策定

廃棄物

- 2025年末までに**100%**の事業所で有害廃棄物の廃棄量の把握も含めて管理
- 2024年末までに廃棄物の**80%**を分別処理する

取り組み

- 2025年末までに梱包材の**25%**に再生材を使用



We commit to :



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



9-2729-18-100-00





2023 年 サステナブル活動実績



顧客満足度

Goal

私たちは、お客様・お取引先様との協働により、市場やお客様のニーズに応える革新的な製品を開発することを目標としています。

私たちの製品に満足して頂くための、お客様へのサポートは、私たちのサービスにおいて最も重要です。



Disclosure 417-1, 417-2, 417-3

私たちの製品に使用する原料は、原産国を確認するためにその調達先を把握するよう努めています。私たちは常にサプライヤーに仕様の提出を求め、仕様によっては、私たちの基準を満たすように改善できるかどうかをサプライヤーに尋ねる権利を保持しています。

こうした観点を、原料を選択する段階から内部の手続きに組み込み、実践されているため、基準に適合した原材料を新製品の研究開発の段階から選択することが可能です。

私たちの製品は、しっかりとした職場の健康と安全の手続きに基づいて管理されており、環境規制に沿って使用および廃棄されることが保証されています。

KPI

18 革新的なプロジェクト

15 お客様向けセミナー開催数

私たちは、パートナーと協力し、市場と顧客のニーズを満たす革新的な方法を見つけ出すことを目指しています。お客様が私たち製品を最大限に活用できるようにサポートすることが私たちの使命だと信じています。

2022 年に開始された欧州での CoWoP プロセス（お客様との共同作業プロセス）は、2023 年に 10 件のプロジェクトを創生し、そのうち 33%がすでに完了しています。

2023 年度、三好化成グループでは、製品やマーケティング活動に関する規制や自主ガイドラインに違反する事例はありませんでした。

マイクロバイオーームフレンドリー認証：NAI 製品

三好ヨーロッパは化粧品顔料製造会社として初めてマイクロバイオーームフレンドリー認証を取得しました。対象となった製品は以下のサイトに掲載されています：

NAI Treated Pigments.





キャリアマネジメント

Goal

私たちは、従業員が自分のスキルと才能を開発し、職場で実践できるよう尽力しています。定期的な業績評価と従業員研修プログラムの実施を通じて、従業員のさまざまな懸念に丁寧に対応し、業務慣行を改善します。



Disclosure 2-7, 2-8

従業員数（全拠点）：

		合計	女性	男性
三好化成	フルタイム	58	15	43
	パートタイム	9	8	1
	合計	67	23	44
三好アメリカ	フルタイム	77	23	54
	パートタイム	4	4	0
	合計	81	27	54
三好ヨーロッパ	フルタイム	56	24	32
	パートタイム	5	4	1
	合計	61	28	33
三好蘇州	フルタイム	28	9	19
	パートタイム	0	0	0
	合計	28	9	19
合計		237	87	150

拠点によっては事業活動の繁忙期に、派遣会社を通して臨時で従業員を雇用する場合があります。2023年の臨時従業員数は以下のとおり：

	合計	女性	男性
三好化成	13	6	7
三好アメリカ	10	1	9
三好ヨーロッパ	4	0	4
三好蘇州	0	0	0
合計	27	7	20

Disclosure 401-1

2023 年新規従業員数：

			日本	アメリカ	フランス	中国
新規従業員数	女性	30 歳未満	0 (0%)	2 (40%)	5 (45.5%)	0 (0%)
		30-50 歳	3 (14%)	1 (3.3%)	2 (12.7%)	0 (0%)
		50 歳以上	0 (0%)	2 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)
	男性	30 歳未満	0 (0%)	13 (100%)	1 (20%)	1 (71.4%)
		30-50 歳	4 (14.5%)	3 (23.1%)	6 (37.5%)	3 (20.5%)
		50 歳以上	1 (6.3%)	2 (22.2%)	0 (0%)	0 (0%)

2023 年離職者数：（自主退職、解雇、定年退職による退職者）

			日本	アメリカ	フランス	中国
離職者数	女性	30 歳未満	0 (0%)	3 (60%)	3 (27.3%)	0 (0%)
		30-50 歳	0 (0%)	0 (0%)	1 (6.3%)	0 (0%)
		50 歳以上	0 (0%)	3 (21.4%)	0 (0%)	0 (0%)
	男性	30 歳未満	0 (0%)	10 (0%)	0 (0%)	1 (50%)
		30-50 歳	2 (7.2%)	8 (61.5%)	6 (37.5%)	0 (0%)
		50 歳以上	2 (12.5%)	4 (44.4%)	0 (0%)	0 (0%)

Disclosure 401-2

私たちの従業員は、基本給に加えて、さまざまな福利厚生を受けることができます。福利厚生の内容は拠点によって異なりますが、会社は従業員がより多くの恩恵を得られるよう努めています。

三好アメリカ コミュニティカレッジと連携

三好アメリカは地元のクインバークバレーコミュニティカレッジと連携してオペレーション、メンテナンス、品質部門向けのカリキュラムの作成に 37 名の従業員が参加しました。カリキュラムには、製造における品質、危険物取り扱い、リーン 6S、製造数学などが含まれます。このプログラムは大成功を収め、三好アメリカが従業員研修を支援していることの証明にもなりました。



一部の拠点では、休暇の追加（5日）、医療保険、福利厚生プログラム、利益分配、生命保険、年金貯蓄などがあり、その地域における既存の基準を超えるものとなっています。

Disclosure 404-1, 404-3

従業員が仕事で成長できるよう、私たちは従業員の自己啓発のためのトレーニングに関するニーズに耳を傾けることに尽力しています。

各拠点では、年次パフォーマンスレビューの際に従業員と直近の1年の振り返りと今後の1年の目標について話し合うという方針をとっています。

		日本	アメリカ	フランス	中国
パフォーマンスレビューを受けている従業員の割合	女性	100	100	100	100
	男性	100	100	100	100

またキャリア開発のための面談も定期的実施されています。

トレーニングに関する要望について、従業員は、こうした機会、または経営陣との話し合いの機会場で伝えることができます。私たちは、安全に関する必須のトレーニングコースに加え、適正な作業慣行、スキル開発、管理改善など、幅広いトレーニングコースを提供しており、従業員のニーズに応じて、適切な学習セッションをカスタマイズすることも可能です。2023年には、従業員1人あたり、平均20.6時間の研修（必須研修コースと追加の任意研修）を受講しました。内訳は次のとおりです。

2023年の平均研修時間	性別	男性	20.7
		女性	20.5
	カテゴリー	カテゴリー1	19.4
		カテゴリー2	20.9
		カテゴリー3	30.9

従業員の区分を以下のように定義しています。

カテゴリー1：管理職または専門的立場の従業員

カテゴリー2：中間層の熟練従業員

カテゴリー3：業務経験が浅い工場労働者、オペレーター等の従業員

KPI	ターゲット
99.1% 従業員がパフォーマンスレビューを受けている割合	100%
0.89% 研修に費やされる労働時間の割合	1%



人権・平等・多様性

Goal

私たちにとって、人権の尊重は最も重要な目標です。私たちは、私たちのグローバルビジネスとサプライチェーンにおいて人権が尊重されるよう常に留意しています。三好化成グループの目標は、平等な機会、多様な労働力、そしてすべての人にとって快適な職場環境を促進することなのです。



人権

Disclosure 408-1

私たちの事業では、鉱物顔料やフィラーを扱っています。マイカなどの特定の鉱物のサプライチェーンは、児童労働のリスクにさらされていることが知られています。マイカに関しては、地域によっては、家族が子供を鉱山に連れて行き、マイカの薄片を拾い、選別作業をさせている可能性があります。私たちはすべての主要な鉱物サプライチェーンで児童労働のリスクを考慮しました。

私たちは、現場での活動プログラム、サプライチェーンのメンバーの参加、政府への支援活動などを通じて、マイカ関連の児童労働をなくすための総合的なイニシアチブ、Responsible Mica Initiative (RMI) に加入し、積極的に支援しています。持続可能性を達成するために、産地とサプライチェーン関係者の両方で新しい慣行を構築できるのは、このような総合的なアプローチだけだと考えています。

RMI のこの分野における主な使命は、コミュニティ エンパワーメント プログラムを立ち上げることであり、子供たちに自分たちの権利を教え、教育およびエンパワーメント活動を提供し、持続可能かつ日常的なシステムを構築して、子供たちが永久にこの労働の世界に身を置かないようにすることです。プログラムには、少女や女性のための具体的な活動も含まれており、彼女たちがより広い認識と、コミュニティでの役割を選択する自由を得られるように支援します。RMI のこのようなプログラムは、特定の地域のマイカ依存に関連する約 180 の村で実施されていますが、マイカ収集の複雑さと仲介業者の数の多さを考えると、RMI が支援する村の割合がどのぐらいかを評価することは非常に困難です。

Disclosure 409-1

サプライチェーンリスク評価では、強制労働も、特定の国とセクターにおいて考慮したリスクの一つでしたが、この評価では、強制労働のリスクは高いという訳ではありませんでした。これらの国やセクターで事業を展開するサプライヤーについては、強制労働が内部慣行ではないこと、また、この問題がサプライヤー自身のリスク分析で十分に考慮されていることを 2024 年から 2025 年の間に確認する予定です。

平等と多様性

Disclosure 2-7

従業員分布（p.14）で示すように、三好グループ全体の女性比率は 36.7%、中間管理職、上級管理職、部長職等管理職に占める女性の割合は 32.3%となります

Disclosure 405-1

新入社員の選考の際は、彼らの強みや知識だけでなく、私たちの企業精神に適応する力も重視しています。新入社員の強みは、業務に関するスキルだけでなく、会社に貢献できる一人一人の多様な能力にあるのです。

	性別*	年齢	人数・割合
2023 年の従業員の多様性	女性	30 歳未満	11 (4.6%)
		30-50 歳	80 (33.8%)
		50 歳以上	18 (7.6%)
	男性	30 歳未満	15 (6.3%)
		30-50 歳	77 (32.5%)
		50 歳以上	36 (15.2%)

* 本人の申告による

KPI		ターゲット
36.7%	女性社員の割合	
32.3%	女性管理職の割合	
100%	ハラスメントと差別に関する研修を受けた従業員の割合	100%
33.9%	ダイバーシティとインクルージョンに関する研修を受けた管理職の割合	100%
1:1	男女入社時給与比率	1:1

三好化成グループは、各拠点の社長、副社長、CFO を務める 7 人の男性で構成される役員会によって運営されています。役員のうち 6 人は 50 歳以上で、1 人は 30 歳から 50 歳に位置します。

Disclosure 2-30

“従業員の幸福”は私たちの理念の中心にあります。一部の拠点では経営陣と選出された従業員代表との定期的な対話の機会が設けられており、その他の拠点には従業員に周知された非公式の経営陣とのコミュニケーションチャンネルがあります。いずれの場合も、すべての拠点で従業員と経営陣の対話が奨励されています。

Disclosure 401-3

従業員が幼少期の子育てに参加できるようにするのは当然のことです。

育児休暇はこの点において優れた手段であり、従業員は育児休暇中、家庭生活に集中しながらも、時期が来たら安心して仕事に戻ることができます。2023年の従業員の育児休暇の利用状況は次のとおりです。

2023年:	性別	人数・割合
育児休暇を取得する権利のある従業員	女性	2 (2.3%)
	男性	4(2.6%)
育児休暇を取得した従業員	女性	2 (2.3%)
	男性	3 (2.0%)
育児休暇後に職場復帰した従業員	女性	2 (2.3%)
	男性	3 (2.0%)
育児休暇後、2023年末時点で雇用されている従業員	女性	2 (2.3%)
	男性	3 (2.0%)

Disclosure 202-1

従業員の給与に関しては、性別ではなく、個人のスキル、行動、経験に基づいて公正な賃金を提供することが不可欠であると考えています。以下は、各拠点の男女別の初任給を、現地の最低賃金と比較して表示したものです。

		日本¥/時給	アメリカ\$/時給	中国人民元/月給	フランス€/月給
2023年の初任給額	女性	1515	17	4840	2016
	男性	1515	17	4840	2016
	地域の最低賃金	1028	15.69	2280	1766.9
	初任給と最低賃金の比率	1.47	1.08	2.12	1.14

地域の生活賃金を遵守するべく、最低賃金だけではなく、生活賃金との比較についても2024年度に計画しています。

私たちの基本給は、従業員のカテゴリーに関係なく、男性と女性とで同一です。

以下のカテゴリーの定義は、

カテゴリー 1 : 管理職または専門的立場の従業員

カテゴリー 2 : 中間層の熟練従業員

カテゴリー 3 : 業務経験が浅い工場労働者、オペレーター等の従業員

		日本	アメリカ	中国	フランス
2023 年の基本給比率 (女性/男性)	カテゴリー 1 の比率	1	女性無し	1.04	0.88
	カテゴリー 2 の比率	1	0.91	1.07	0.94
	カテゴリー 3 の比率	女性無し	0.73	女性無し	女性無し

コミュニティ

Disclosure 413-1

三好グループでは、地域社会への貢献の観点から地域での活動も重視しています。

各拠点は、特定のコミュニティや慈善事業に参加しています。地域の団体を通じてその地域の家族を支援したり、孤児院に衣類を寄付したり、近くの工業地帯を清掃したりするなど、地元をサポートし、従業員がその活動に参加できるようにしています。



2256 缶のスープを寄付

三好アメリカは、コネチカット州パトナムのインターフェイス・ヒューマン・サービスが主催する 2023 年スカッシュ・ハンガー・イベントに参加しました。地域の工場施設のスープ缶寄付活動では、三好アメリカの従業員が 1128 缶のスープ缶を、会社も同数を寄付し、あわせて 2256 缶を寄付しました。



労働者の健康と安全

Goal

三好化成グループは、すべての従業員に安全で健康的な労働環境を提供することを目標としています。すべての拠点はリスクを特定・評価・軽減するためのプログラムを実施し、リスクを最小限に抑え、安全意識を持った行動を促進するように努めます。



Disclosure 403-1, 403-2

三好化成グループのコアバリューは、すべての従業員に安全で健康的な職場環境を提供することです。これには、リスクの評価と管理、危険な状況の最小化、安全文化と安全意識に基づく行動の奨励が含まれます。

三好化成グループの全拠点では、各国法規制上の義務およびビジネス活動に伴う固有のリスクに基づいた労働安全衛生管理システムが導入されています。これらは、仕事や職場環境に関連する潜在的な健康被害から従業員を保護することを目的としています。

各国の法規制：日本の労働安全衛生法、中華人民共和国の労働安全法および中華人民共和国職業病予防規則、米国の労働安全衛生局(OSHA) 規制、フランスの労働安全衛生法。

この管理システムはグループ内の各社独自のものであり、すべての労働者を対象に、作業場や工場の地理的エリアごとに活動を分類してリスク分析を行っています。

各作業は、その潜在的な重大性と頻度に応じてスコア付けされ、そのスコアを既存の予防措置に応じて修正します。その後、すべての残存リスクに優先順位を付け、必要に応じて行動計画を作成します。

この評価は毎年または必要に応じて行われます。評価は拠点ごとに、会社のサポートを受けながら EHS（環境/健康/安全）担当社員が主導し、評価結果は各地の経営陣によってレビューされます。

すべての作業員が可能な限り安全な環境で作業できるように、各拠点では、潜在的に危険な状況をどのように誰に通知するかについての手順が定められています。危険な状況が発生した場合は、すみやかに各拠点の EHS 担当に報告されます。

さらに各拠点の EHS 担当は定期的に安全監査を実施し、潜在的なリスクを特定しています。

検出された危険な状況はすべて年次評価に組み入れられ、リスクのレベルに応じて早急に対策が講じられます。

グループの安全文化の一環として、すべての従業員は潜在的に危険な状況を報告するよう奨励されています。いかなる状況においても、仕事において又は人的関係において、通知をしたことにより通報者を否定的に扱うことは許容されません。

各拠点では、業務関連の事故の原因を評価するための手順も整備されています。

労働者は、安全に関する懸念を従業員代表または直属の上司に伝えることもできます。

また、社内の諸問題や労働条件について話し合うことを目的とした労使協議会が定期的に開催されます（拠点により月に 1 回、または必要に応じて遅滞なく開催）。また、より包括的な評価が年に 1 回実施されます。

これらの会議は、従業員代表に年次リスク評価を提示し、プロセスと結果に関する彼らのコメントや質問を求めるよい機会でもあります。従業員代表は、このトピックについてすべての従業員とコミュニケーションを取るように求められています。

Disclosure 403-8

グループ従業員全員(100%)がこのような 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となっており、導入されているシステムと手順は少なくとも年に 1 回は社内でチェックを行っています。

Disclosure 403-5

各現場の作業員は、少なくとも年に 1 回、全般的な健康と安全の実践に関するトレーニングを受けます。このトレーニングには、消防訓練、避難訓練、工場のエリアに応じた 安全機材の使用法、手指衛生などが含まれます。さらに、各作業場で発生する特定のリスクに応じて、作業員は日常業務で適切に対応するための特別なトレーニングを受けています（たとえば、化学物質の危険防止訓練など）。

新しい形の「脱出」安全トレーニング

三好ヨーロッパの 2023 年の安全トレーニングは、脱出ゲームでした。仕事の状況にあわせた 10 個のパズルと謎解き、いろいろなグループが異なるロジックを組み合わせながらチームワークを発揮する…。このトレーニングでは、仕事で遭遇するリスクに対する意識を高め、楽しみながら安全性についていくつかのことを（再）学習することができました。



Disclosure 403-6

すべての労働者は、職場に関連する特定のリスクに焦点を当てた定期的な健康診断を受けることができます。工場労働者または粉塵に接触する労働者の場合、年に1回の健康診断では、聴力、呼吸器チェックなどが含まれます。この健康診断のなかで、労働者は仕事に関連する健康上の懸念について相談することができます。

各拠点の全従業員には福利厚生としてヘルスケア プログラムも提供されています。

Disclosure 403-9, 403-10

労働災害について、2023 年も、これまでのすべての年と同様、死亡者は出ていません。2023 年のグループの従業員の労働災害は、次のとおりです。

- 重大な傷害：0 人

- 全負傷者数：7 人

怪我は捻挫や肉離れといった筋肉に関連する怪我でした。

ほとんどの傷害は作業上の姿勢や動きに関係したもので、通勤途上で発生するものもまれにあります。より深刻な結果をもたらす傷害は、各現場の安全リスク評価で特定された作業に関連したものでした。

弊社従業員以外の作業員に負傷者はありませんでした。

労働者の負傷を防ぐために講じられる措置としては、危険性評価、危険物質および緊急時の行動に関するトレーニングなどがあります...

三好グループの度数率は、1,000,000 労働時間ベースで計算されます。（休業災害件数×1,000,000／会社全体の総労働時間）に基づいて計算されます。2023 年の度数率は 4.4 でした。

KPI	ターゲット
100%	安全衛生リスクアセスメント実施事業所の割合
0.01	重症度

防災カード

2023 年、日本の三好化成では災害発生時の緊急時に役立つ情報や行動をまとめた防災カードを作成しました。全従業員が常に携帯しています。



ビジネス倫理

Goal

三好化成グループは、腐敗防止に関する従業員の意識向上の取り組みを強化しました。また主要なサプライチェーンにおいて、デューデリジェンスプログラムを実施することで、サプライヤーのトレーサビリティを高め、ビジネス倫理の実践を確認できるようにする予定です。



Disclosure 2-15

三好化成グループは、あらゆる形態の腐敗行為を非難し、積極的に防止および発見するよう努めています。グループ従業員は、利益相反を含む腐敗行為に関する研修を受けており、社外と接触する従業員にはさらに徹底した研修を計画しています。従業員は全員、腐敗行為や利益相反に該当すると考えられる行為に遭遇した場合には、会社に報告するよう奨励されています。その場合には、内部告発手続きが利用できます。

尚 2023 年度中に利益相反や腐敗行為の事例は報告されていません。

Disclosure 2-25

グループの各拠点には、現地の内部告発手続きが設けられています。内部告発事案が発生した場合、調査が行われ、通報がどの程度正当であるかを判断します。社内または社外の人が通報に関する調査に携わります。通報が事実であり、法律、行動規範、または就業規則等への違反があった場合、各拠点は状況を解決し、悪影響を是正する責任を負います。

この内部通報制度は、社内に掲示するなど従業員に周知徹底されています。

2023 年、グループのいずれの拠点でもこのチャネルを使用した内部告発の事例は発生していませんが、米国拠点では以前に発生しており、本プロセスの有効性が確認されました。

Disclosure 205-1

汚職関連のリスク評価は、何れの拠点でもまだ行われていませんが、2024 年に実施する予定です。

Disclosure 205-2

三好化成グループ全従業員（2023 年はフルタイム 238.5 人）は、役員も含め、腐敗行為を防ぐ活動を含む倫理方針と、腐敗・不正行為を警告できる内部告発手順についての説明と研修を受講しました。2025 年には継続研修が予定されています。

腐敗防止は、三好化成グループがサプライヤーに署名を求めている行動規範にも含まれています。

Disclosure 205-3

2023 年度中、腐敗に関する事件や裁判についての報告はありませんでした。

Disclosure 206-1

三好化成グループでは、反トラスト法や独占禁止法の違反に関与した行為の発生は確認されていません。したがって、これらの問題に関連して、2023 年度中に係属中の訴訟や、完了した訴訟はありません。

KPI		ターゲット
98.72%	腐敗防止に関する研修を受けた従業員の割合	100%
90%	内部通報制度の研修を受けた従業員の割合	100%
0%	デューデリジェンスプログラムを実施した主要サプライチェーンの割合	100%
100%	一般情報セキュリティ・情報開示管理に関する研修を受けた従業員の割合	100%



贈答・接待に関するポリシー

三好ヨーロッパは、社内規則に各従業員に行動規範を配布し、腐敗防止の方針や、自社の従業員への、または自社の従業員からの贈答接待等があった場合の対処方法を詳細に規定しています。

行動規範には、その他にも、データの完全性と機密性や、差別や嫌がらせに関する規定なども含まれています。



持続可能な調達

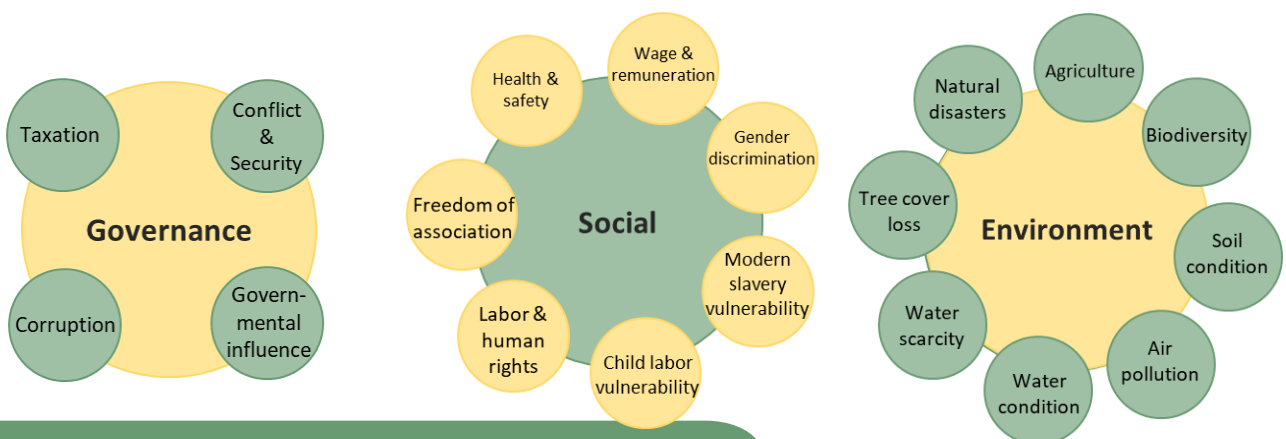
Goal

私たちは、購入する原材料が、三好化成グループの品質基準や一般取引条件だけでなく、CSR 戦略にも適合するよう、サプライヤーと協力して取り組んでいます。また、お取引先との取引においては、当社と同じ行動規範を厳守することをお願いしています。



2022 年、私たちは持続可能な調達戦略の第一ステップとして、サプライヤーの CSR への取り組みと実績を評価しました。私たちは、Ecovadis の評価ツールを参考にして、主要サプライヤー（原材料、梱包、輸送）にアンケートを送り、その結果、サプライヤーの 51% から CSR 調査票への回答をいただくことができました。

次のステップは、2023 年内に主要なサプライチェーンのリスク分析を実行することでした。私たちは、売上高に応じて主要な製品の原料を選択し、その原料に関連する国のリスクと、特定のセクター（採掘、化学処理など）に関連するリスク評価を実施しました。使用原料の各製造段階と製造が行われる国を組み合わせることで、特定のサプライチェーンに存在する潜在的なリスクの概要を把握することが可能です。セクターと国について把握したリスクは、以下に示すとおり、ガバナンス、社会、環境に分類されます。

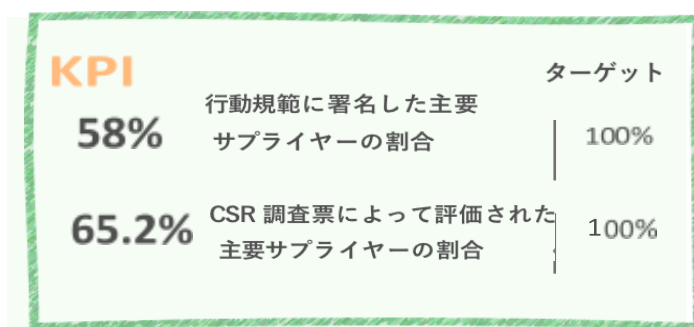


ガバナンスの部分は、国の政府や政治に大きく関連しているため、各セクターでは考慮されていません。

私たちは主に ILO、WHO、ユニセフ、WWF などの国際的に認められたさまざまな情報源を使用して基準を設定しました。

マトリックスを構築後、バリューチェーンのなかでの活動と、その活動が行われる国を関連付けて、各サプライチェーンの評価値を算出しました。全体的な結果は、両方の評価スコアの重要度に応じて重み付けしています。

最終的なサプライチェーンのスコアは、2022 年に実施した CSR 調査票で対象にした各サプライヤーの CSR への取り組みとも比較を行いました。こうした過程を経て、特定したリスクや対応可能な改善策について今後優先して話し合いを進めていくべきサプライヤーを特定することができました。-



Disclosure 301-2

私たちの原材料の 95% 以上は無機物（鉱物）で、そのうち約 20% は酸化鉄です（重量比）。酸化鉄の製造には、リサイクルされた酸洗液や鉄鋼業界から出る板金スクラップが使用され、こうした方法はアップサイクリングと呼ばれます。

このアップサイクリング以外では、私たちの素材は主に鉱物であるため、リサイクルすることはできません。

三好蘇州-RSPO

三好蘇州は、RSPO サプライチェーン認証を取得しました。これにより三好グループ全拠点にて RSPO に加盟・サプライチェーン認証の取得を完了しました。私たちは、熱帯林破壊などの環境問題の改善への取り組みを一層強化していきます





環境負荷の低減

Goal

法令順守にとどまらず、地域社会との調和を図りながら、環境保全に向けた取り組みを実践していきます。気候変動対策は数年前から優先的に取り組んでいます。が、その他の環境テーマ、特に水については、今後の重要テーマとして取り組む予定です。



Disclosure 201-2

環境への影響をより適切に管理するには、私たちの活動が直接的または間接的に自然の生態系に及ぼすリスクを評価することが不可欠ですが、同時に、これらのリスクから生じる改善の機会もまた明らかになります。

リスクおよび機会については、CDP の気候質問票で毎年回答しており、2023 年に特定されたリスクと機会は、たとえば次のとおりです。

	リスクの説明	影響の説明	財務的影響	管理方法	コスト
リスク	慢性的な物理的リスクは水不足に関連するものです。水不足による生産能力の低下により収益が減少するリスクがあります。	当社の各拠点において、水は製造および洗浄プロセスにおいて重要な役割を果たしています。洗浄は取水量の最大 80% を占めています。WWF Water Risk Filter によると、当社の中国拠点の水ストレスレベルは非常に高くなっています。	夏季に取水制限が行われ、生産能力が減少すると、損失は 100 万ドルを超える可能性があります。	潜在的な水不足により、水を効率的に利用するプロセスを開発する必要があり、それにはプロセスエンジニアの作業と実装が必要となります。	すべての支出（給与、技術費など）を考慮すると、数十万ドルに達する可能性があります。

機会の説明		影響の説明	財務的影響	管理方法	コスト
機会	研究開発とイノベーションを通じて、持続可能な新しい製品やサービスを開発します。	持続可能な製品とサービスの需要増加による収益の増加。	こうした製品の貢献がグループ全体の事業の少なくとも 30% を占めると予測。	強固な研究開発とマーケティングにより、コア事業分野内外での新たなビジネスチャンス特定し、環境に配慮した新製品を創出していきます。	この活動にかかるコストは、私たちのグループ収益の約 1% になると予想しています。

Disclosure 2-27

私たちの中国拠点である三好蘇州では、2023 年 9 月に大気汚染関連の環境規制への違反があり、罰金を科されました。これは法的側面から見て私たちにとって非常に重大な出来事です。三好蘇州は適時に罰金を支払うと共に、問題を改善するための是正措置を遅滞なく講じ、2023 年 9 月末に当局が実施した再検査では問題がないことが判明しました。2023 年度中、その他の拠点での違反事例はありませんでした。

水

Disclosure 303-1

私たちの製品の製造プロセスにはさまざまなレベルで水の使用が伴います。私たちは主に各都市の水道網から取水していますが、日本の拠点では製造プロセス以外では地下水も利用しています。

どの拠点においても、水は蒸発するか、処理に使用されて都市のネットワークに排出されるかのいずれかです。

私たちは、私たちのオペレーションが引き起こす可能性のある水関連の影響についてリスク分析を実施する予定です。2023 年の取水量と排水量に基づいて、全拠点を対象とするこのリスク評価は、各拠点における水のさまざまな用途、水の総使用量、水の使用量を削減する可能性のある措置と貢献レベル、および各措置の期間とコストなどを含みます。

近い将来（2025 年末までに）、私たちは製品ごとの水消費量について評価するとともに、特に水ストレスが高い国において、サプライヤーやその他の利害関係者にも水使用量の評価を実施するよう依頼する予定です。

水関連のリスク分析後の次のステップは、各拠点の状況に基づいた意欲的な水関連の目標を設定することです。

Disclosure 303-2

排出される廃水の質に関しては、受け入れが市の水路網であるため、全拠点において、監視すべきパラメータと遵守すべき制限が設定されています。拠点によって、管理されるパラメータには、pH、温度、懸濁物質、BOD5、COD、窒素含有量、重金属含有量など含まれます。

Disclosure 303-3, 303-4, 303-5

2023 年の取水量と排水量（メガリットル単位）は次のとおりです。

	都市ネットワークからの取水	他ソースからの取水	都市ネットワークへの排水	他ソースへの排水	消費
日本	3.013	2.662 (地下水)	5.156	/	0.119
アメリカ	8.9	/	6.033	/	2.866
フランス	1.138	/	0.75	/	0.39
中国	2.212	0.059 (他業者)	2.183	0.029 (他業者)	0.059
合計	15.263	2.721	14.122	0.029	3.432

世界資源研究所の水道水リスク地図によると、中国の拠点は、水の利用可能性という点で水ストレスの地域に位置しています。

消費量は取水量と排出量の差として計算されます。

環境保護活動

中国の拠点では、2023 年 12 月に工業団地周辺と周辺の住宅地でゴミ収集、瓦礫の撤去、水と環境に関する説明パンフレットの配布を実施しました。職場環境の改善や従業員、近隣住民の環境意識を向上させる良い機会となりました。



生物多様性

Disclosure 304-1, 304-2, 304-4

私たちの拠点は工業地帯にあり、近くには保護地域や生物多様性の価値が高い地域はありません。IUCN の定義による絶滅の危機に瀕している種は、私たちの拠点の近くには生息していないとされています。

しかし、私たちの主な原料は鉱物であり、その一部は地殻から採掘されます。鉱物の採掘は、当然ながら、土壌の状態だけでなく、鉱山地域の周囲のすべての天然資源と生物多様性にも影響を与えます。

鉱業セクターおよび関連する産業活動のリスク分析によって、森林破壊、土壌および水質汚染、生息地の分断など、さまざまな問題の可能性が考えられます。

私たちは、サプライヤーと協力して自然生態系への影響を評価し、必要に応じて適切な措置を講じるプロセスに着手しました。

廃棄物

Disclosure 306-1, 306-2, 306-3, 306-4

私たちの廃棄物管理システムは、廃棄物の種類がそれほど多くはないことから、組織内で明確に定義されています。私たちの事業からは、主に原材料の梱包廃棄物、粉末状の製品廃棄物、そして拠点によっては製造活動から生じる汚泥があります。発生した有害廃棄物はすべて、専用のルートで収集および処理されます。

私たちの活動の範囲内で、廃棄物に関連する直接的なリスクは確認されていません。ただし私たちのサプライチェーン内では、特定のセクターが廃棄物に関連する重大な影響を及ぼす可能性があることを認識しています。たとえば、アルミニウムおよびアルミニウム化合物の生産ではボーキサイトが使用され、非常に有害な赤泥が生成されます。

KPI		ターゲット
21.8%	廃棄物リサイクル	80%
33%	リサイクル材料を使用した梱包	25%

私たちは今後 2 年程度を目標に、サプライヤーと協力してお互いの環境活動についてさらに詳しく理解し、お互いの事業の環境リスクに共に取り組んでいきたいと考えています。

2023 年、リサイクル分を含む拠点ごとの廃棄物量は次のとおりです。

2023 年	廃棄物 発生量	処分せずリサイ クルした廃棄物	廃棄物最終 処分量
廃棄物 総トン数	569.0	123.8	445.2
有害廃棄物	10.3	0	10.3
非有害廃棄物	558.7	123.8	434.9



アースデイに積極的に地域活動

三好アメリカは、2023 年「アースデー」に地元キリングリー ビジネス協会の地域活動に参加しました。三好アメリカの従業員は、同社があるコネチカット州の工業団地でゴミを拾い、花粉を媒介する昆虫のために野生の花を植えました。



気候

Goal

三好化成グループは、SBTi（Science Based Targets initiative）に沿って、明確で測定可能な温室効果ガスの削減目標を設定し、環境への取り組みを行うことを宣言しています。2030 年までに Scope1、2 関連の排出量を 50%削減することを目標とするとともに、Scope3 削減のための行動も行っています。



Disclosure 302-1

私たちは、2015 年よりエネルギー消費のモニタリングを開始し、それ以降、主に設備やプロセスに焦点を当てて、消費量を削減する方法を模索してきました。機器やモーターをよりエネルギー効率の高いものに交換したり、生産プロセスを調整して、エネルギー消費が大きい工程を削減したりする等がその例です。

私たちの総エネルギー消費量の計算には、スコープ 1 およびスコープ 2 の計算に含まれるすべてのエネルギー（電気、燃料、ガス）が含まれます。2023 年総エネルギー消費量は次の通りです

	再生可能エネルギー源 MWh	非再生可能エネルギー源 MWh	合計
燃焼消費量	0	1870.5	1870.5
購入した電力の消費量	0	4737	4737
自家発電した再生可能エネルギーの消費量	1167	N/A	1167
総エネルギー消費量	1167	6607.5	7774.5

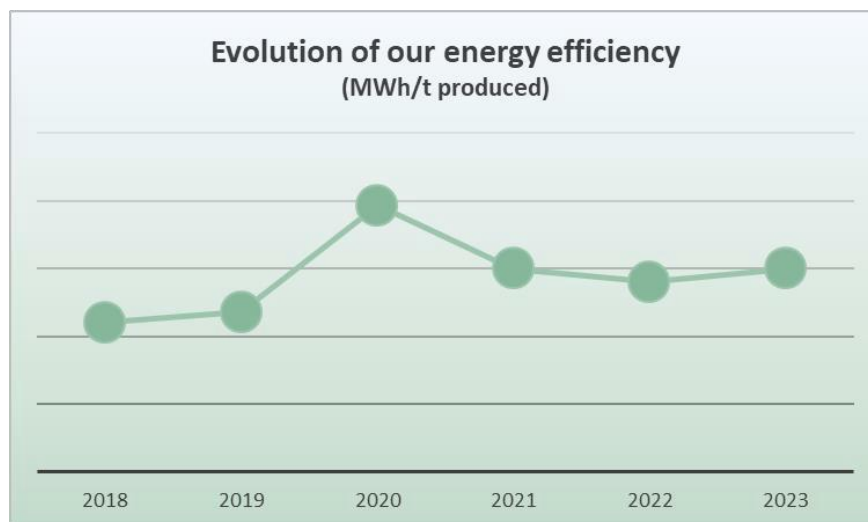
三好アメリカ EV 充電ステーション

3 月 7 日、三好アメリカは施設内に新しく EV 充電ステーションを設置しました。充電ステーションは三好アメリカの全従業員が利用することができます。この事例が、従業員だけでなく、地域社会がより持続可能な流れに移行するきっかけとなることを期待しています。



Disclosure 302-3

私たちのエネルギー（電気、ガス）の総消費量と生産量を基にしたエネルギー効率の推移は以下の通りです。



Disclosure 302-4

2022 年に目標を設定して以降、私たちは、拠点ごとの取り組みと排出量削減への貢献度をモニターしながら、脱炭素化計画を実行してきました。エネルギー消費のベースライン（基準年）は 2018 年です。認定された第三者によって実施されたカーボン フットプリントの集計結果により、毎年のエネルギー消費の削減を評価することができます。

2023 年は、2018 年と比較して CO2 排出量を 26% 減少しました。

スコープ 1 と 2 のエネルギー消費量の年ごとの削減は、以下の表の通りです。

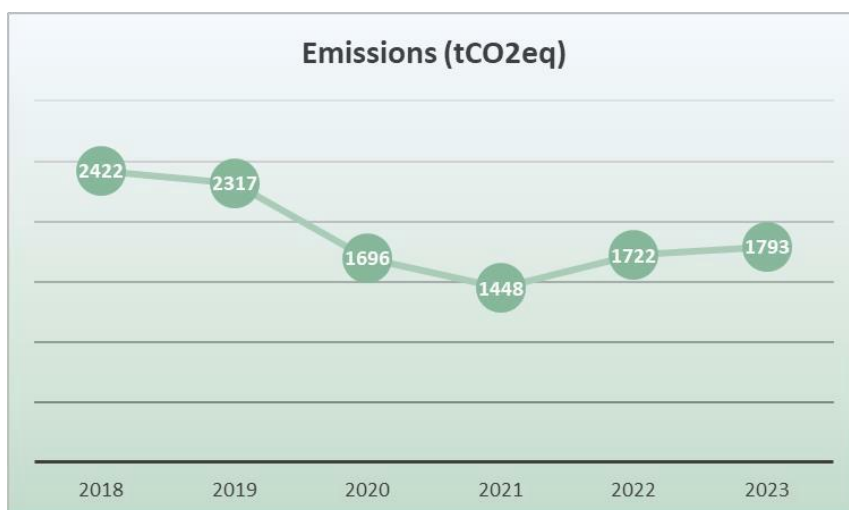
KPI		ターゲット
-26%	2018 年度比の CO2 排出量 (Scope1&2)	-50%
100%	Scope 3 の評価対象	100%
A-	CDP スコア	

tCO ₂	2018	2019	2020	2021	2022	2023	...	2030
スコープ 1+2	2422	2317	1696	1448	1722	1793	...	1211
2018 年比%	基準年	-4.3	-30.0	-40.2	-28.9	-26.0	...	-50

Disclosure 305-1, 305-2

私たちは、2022 年に初めて GHG プロトコルを基準とした外部検証済みのカーボン フットプリントを算出し、それ以降毎年継続しています。2022 年はスコープ 1 と 2 が対象でしたが、2023 年以降はスコープ 3 を含むすべてのスコープを対象にしました。算定対象はすべてのガスですが、排出量は CO2 換算で表します。

2023 年のスコープ 1 とスコープ 2 はそれぞれ 352 tCO2e と 1441 tCO2e でした。測定開始以来の私たちのカーボンフットプリントの結果は、以下の図の通りです。



*スコープ 2 排出量はロケーションベース方式です。2018～2021 年の実績は第三者機関が使用した方法と同じ方法で算出しましたが、検証は行われていません。

私たちは SBTi の SME(中小企業向け)目標設定で、基準年を 2018 年とし 2030 年までに -50% 削減を目標としました。三好グループ全体の排出量で換算するため、各拠点の削減実績を集計してトータルの排出量を計測しています。

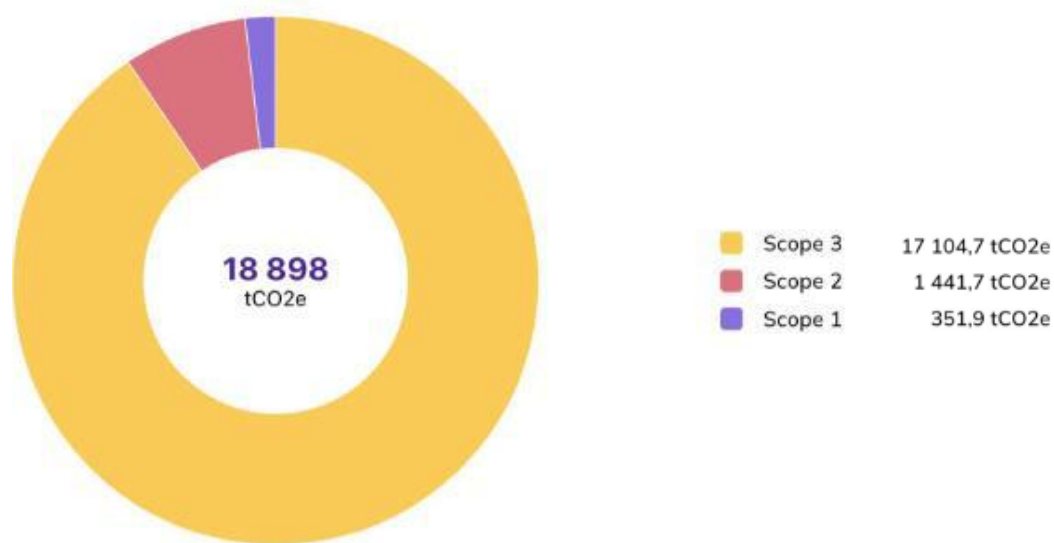


三好ヨーロッパの新しいソーラーパネル

2023 年 9 月、三好ヨーロッパは 28 台分の駐車スペースをカバーする 562m²の新しいソーラーパネルを開設しました。年間 136MWh の発電量は自家消費され、敷地内の電力需要の 10%を賄います。

Disclosure 305-3

私たちは、GHG プロトコル基準に基づき、2022 年に初めて除外項目なしでスコープ 3 を計算しました。下のグラフに示すように、2023 年のスコープ 3 排出量は 17104.7 tCO₂e です。



排出係数は主に、第三者機関のデータベース Ecoinvent、Ademe、EPA を使用しています。

Disclosure 305-4

総排出量（スコープ 1、2、3）と総生産量との関係を表すことで、エネルギー効率を把握できます。この比率は、全体的な事業成長を考慮しながら排出量を削減する取り組みを導くことができるため、重要であると考えています。

Disclosure 305-5

スコープ 1 および 2 の排出量削減に重点を置いた私たちの脱炭素化計画により、2023 年にはすべてのガスを合わせて 17 トンの CO₂e が削減されると見込んでいます。この計画の主な取り組みとしては、ユーティリティ用のタイムクロックの設置、オーブンの使用を最適化するための生産計画の調整、工場の未使用部分の電源のオン・オフコントロール、電気回路の分離、照明の LED モデルへの変更などがあります。

What's next

三好化成グループは、2024 年度にはグループレベルで主要テーマへの戦略を深めるとともに、地域ごとのアクションプランにも注力し、社員の間に真の CSR 意識が浸透するよう働きかけたいと考えています。

世界的にも地域的にも、変化をもたらす機会を常に模索することが、私たちを持続可能な旅へと導いてくれます。私たちは、堅牢で信頼性の高いツールや基準を用いて、より持続可能な企業へと成長するため努力を惜しみません。

私たちの 4 つの拠点は、2024 年に取り組む以下の優先トピックスについて、これまで以上に連携して監視、報告、戦略の策定などを行います。



サプライヤーとの協働によりデューデリジェンスプログラムを強化する。

目標と行動計画 を連携させ、水に関する戦略を立てる。



スコープ 3 の目標と行動計画を策定する。

天然資源に関する戦略を策定する。



CSR の地域活動を実行する。

GRI content index

三好化成グループは、GRI スタンドアードを参考、に、2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの期間において、下記 GRI 内容索引に引用されている情報を報告しています。

GRI スタンドアードと開示

	ページ
GRI 1 : 基礎 2021	2
GRI 2 : 一般開示事項 2021	
組織と報告実務	
2-1 組織の詳細	4
2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	4
2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	2
活動と労働者	
2-6 活動、バリューチェーン、その他の取引関係	4
2-7 従業員	14; 18
2-8 従業員以外の労働者	14
ガバナンス	
2-9 ガバナンス構造と構成	5
2-11 最高ガバナンス機関の議長	10
2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	10
2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	10
2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	10
2-15 利益相反	24
2-17 最高ガバナンス機関の集会的知見	10
戦略、方針、実務慣行	
2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	3
2-23 方針声明	5
2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	24
2-27 法規制遵守	29
2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	6
2-30 労働協約	19
GRI 3 : マテリアルな項目	
3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	7
3-2 マテリアルな項目のリスト	7
3-3 マテリアルな項目のマネジメント	8
GRI 201: 経済パフォーマンス	
201-2 気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	28
GRI 202: Market Presence	
202-1 地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率（男女別）	19
GRI 205: Anti-corruption	
205-1 腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	24
205-2 腐敗防止の方針と手順に関するコミュニケーションと研修	25
205-3 確定した腐敗事例と実施した措置	24

GRI 206: 反競争的行為 2016

206-1 反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	25
------------------------------------	----

GRI 301: 原材料

301-2 使用したリサイクル材料	27
-------------------	----

GRI 302: エネルギー

302-1 組織内のエネルギー消費量	33
302-3 エネルギー原単位	34
302-4 エネルギー消費量の削減	34

GRI 303: 水と廃水

303-1 共有資源としての水との相互作用	29
303-2 排水に関連するインパクトのマネジメント	30
303-3 取水	30
303-4 排水	30
303-5 水消費	30

GRI 304: 生物多様性

304-1 保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業拠点	
304-2 活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	31
304-4 事業の影響を受ける地域に生息する IUCN レッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	

GRI 305: 大気への排出

305-1 直接的な GHG 排出（スコープ1）	35
305-2 間接的な GHG 排出（スコープ2）	35
305-3 その他の間接的な GHG 排出（スコープ3）	36
305-4 温室効果ガス（GHG）排出原単位	36
305-5 温室効果ガス（GHG）排出量の削減	36

GRI 306: 廃棄物

306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	31
306-2 廃棄物関連の著しいインパクトの管理	31
306-3 発生した廃棄物	31
306-4 処分されなかった廃棄物	31

GRI 401: 雇用

401-1 従業員の新規雇用と離職	15
401-2 フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	
401-3 育児休暇	19

GRI 403: 労働安全衛生

403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	21
403-2 危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	21
403-3 労働衛生サービス	21
403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	21
403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	22
403-6 労働者の健康増進	23
403-8 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	22

403-9 労働関連の傷害	23
403-10 労働関連の疾病・体調不良	23
GRI 404: 研修と教育	
404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	16
404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	16
GRI 405: ダイバーシティと機会均等	
405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	18
405-2 基本給と報酬の男女比	20
GRI 408: 児童労働 2016	
408-1 児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	17
GRI 409: 強制労働 2016	
409-1 強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	18
GRI 413: 地域コミュニティ 2016	
413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	20
GRI 417: マーケティングとラベリング 2016	
417-1 製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	13
417-2 製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	13
417-3 マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	13



三好化成グループ：

三好化成株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北四丁目 3 番 14 号 市ヶ谷ガラスゲート 5F

Miyoshi America, Inc.

110 Louisa Viens Dr. PO Box 859, Dayville, CT 06241, USA

Miyoshi Europe SAS

5, Rue Paul Rieupeyroux, 69800 Saint-Priest, FRANCE

Miyoshi Suzhou, CO., LTD.

No.26 SUB-Industrial Zone, No.666 Jianlin, Road, Suzhou New District, Suzhou City, Jiangsu, CHINA 215151

